

やましんかわら版は  
山新販売店と読者をつむ  
ミニコミ紙です

# やましんかわら版

発行部数 9万7,000部

毎月5日発行

新聞休刊日のため5月7日(月)付朝刊はお休みさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。



かわら版編集部

〒990-2323 山形市桜田東二丁目3-8-7  
《ホームページ》<http://www.yamashinhanbai.jp/>  
《メール》[kawaraban@yamashinhanbai.jp](mailto:kawaraban@yamashinhanbai.jp)  
読者お問い合わせ窓口  
TEL.023-635-6111 (山新販売内)



3月に開催された第12回アジア・フィルム・アワードの会場にて、レッドカーペット上でインタビューを受ける酒井さん。

モンテディオ山形を  
応援しよう!!  
ホームゲーム日程

会場/NDソフトスタジアム山形

節	対戦カードと日時
第13節	<b>5/6(日)13:00</b> カマタマーレ讃岐 <small>チケット販売中</small>
第14節	<b>5/13(日)14:00</b> 大宮アルディージャ <small>チケット販売中</small>
第16節	<b>5/27(日)14:00</b> ツエーゲン金沢 <small>チケット販売中</small>

今月の  
いちばん  
情報!!

## 山形出身・東北芸術工科大学卒業生が、アジア版アカデミー賞にノミネート!

皆さんは、『アジア・フィルム・アワード』をご存知ですか。それは毎年3月に開催される香港国際映画祭の中で行われるアジア映画を対象とした映画賞。12回目の開催となった今年、山形市出身で東京都の映像プロダクション『L' ESPACE VISION』に所属する酒井伸太郎さんが、映像効果部門(VFX)にノミネートされました。作品名は『銀魂(福田雄一監督/ワーナー・ブラザーズ映画)』。アジア版アカデミー賞といわれるアワードを経た酒井さん、その視線の先はどこを向いているのでしょうか。

Q、ノミネートされて思ったこと。

▶今回のノミネートは、僕一人の仕事ではなく、チーム全体の仕事が評価されたものだと思います。ですからマカオではチーム代表という気持ちで授賞式のレッドカーペット上を歩かせていただきました。結果、受賞にはあたりませんでした。会場に満ちた映画製作に関わる人々の熱を感じ、同じ場にいられることがとてもうれしく思いました。同時に、世界はまだ広いということ、これまで自分がやってきたことが間違いでは

なかったと感じることができました。自分は企画や編集、演出を手がける裏方です。アワードは、そんな裏方をも引き上げてくれる場。その意味では、今回のノミネートは、チームが認められたことと同意であり、それが何よりもうれしいです。

Q、なぜ今の仕事に進んだのか。

▶映像を作ることの楽しさを知ったのは、東北芸術工科大学の情報デザイン学科在学中のこと。もともと今の仕事に就きたかったわけではなく、後に映画を作る、監督になる道へ進もうとしていました。しかし当時、業界の仕組みを知らない僕は、すでに撮影済みの映像を編集する職に就き、主にミュージックビデオの編集に携わるようになっていました。映像作品は、監督のように企画する人、撮影する人、僕のように編集する人など、多くの人に関わります。一旦は、当初の考えと違う道に進みましたが、そこで15年ほどがむしゃらに、どんな難しい仕事でも、できるだけ良い作品を作ろうと続けるうちに仲間が増え、気がつけばトップアーティストの作品を、チームで手掛けるようになっていました。編集の仕事は想像以上にきつく、そして楽しいものです。作品ができた

きの達成感、また映像に対する世の中の反応がやりがいとなり、今までやってこれたのだと思います。

Q、今後、目指すことは。

▶社内に映像作品を一から制作する『企画演出部』を立ち上げ、現在は監督という立場で、アーティストの皆さんの作品作りに携わっています。一方で地方の仕事も増え、最近では山形でのCM制作も手掛けられるようになりました。地元好き、地方好きの自分としては、とてもうれしく感じています。このように、自由にさせてもらえるのは、会社に息づく“やりたいことがあるならチャレンジしよう”という社風のおかげです。わが社の社長も、経験ゼロから映画製作会社を設立し、いくつもの映画を手がけてきました。最近も『ラーメン食いてえ!!』という映画を製作するなど、精神的に活動を続けています。僕も、監督の道に一步近づけることができた今、社長のようなバイタリティーの溢れる仕事を続け、いつか子どもからご年配の方まで楽しめるような映画を作れたら幸いです。



左/映像効果(ビジュアルエフェクト)とは、コンピューターを用いて、現実には見ることのできない画面効果を実現すること。現在の動画に欠かせない技術です。

右/代々木にある『L' ESPACE VISION』本社にて。酒井さんの、作品制作への熱意を感じる取材になりました。

酒井伸太郎  
L' ESPACE VISION

電話/03-3478-0521  
<http://www.lespace.co.jp/>

